



Amazing Grace

「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」

ヨハネの福音書1章18節
牧師 飯田勝利

みなさん、こんにちは。結城福音キリスト教会牧師の飯田勝利です。私は以前、茨城県鹿嶋市にある教会の牧師をしていた頃、こんな経験をしました。

ある日、かみそりでひげを剃りながら、ふと思いました。ひげを剃る時に出る音を、ひげ剃りとは全く関係がないところでいつも聞いている気がする。自分の場合、ひげを剃る音は、ジョリッ、ジョリッ、というよりも、ザクッ、ザクッ、という感じでした。これとそっくりな音を家の中のどこかで、いつも聞いているような気がしたのです。しかし、どこから聞こえた音なのか思い出せませんでした。

私はその時、口の周りのひげを伸ばしていたので、頬から耳のほうにかけてひげを剃っていました。しかも、時々それも伸ばしてみたりするときは、剃る音も余計に大きくザクッ、ザクッ、と聞こえるのです。その音を聞いたたびに、何か気がすまない気持ちになりました。自分が気づかないでいるだけで、身近などこかに確実にその音源は存在する。それを探らないではいられませんでした。

教会の北側には広い畑があり、農家の方が作物を作っています。普段はカーテンを開けているので、どんな作業をしているのかはわかりません。しかし、畑を耕すトラクターの音など、ある程度は見なくてもわかるものです。ある時、ふと、さっきからザクッ、ザクッ、という音が耳に入っているのに気が付きました。「あっ、この音だ」と思いました。それは家の外、畑のほうから聞こえてきます。そして、見るよりも早く、頭の中にひらめきました。

「キャベツ！」。

まさかキャベツがその音源だとは思いませんでした。あの音は、作物が刈り取られるときに出る音だったので。これでひげを剃るたびに覚えていた心の小さな葛藤は、やっと解消されたのでした。

みなさんにも身近なところにあるはずなのに、それがわからないということがあるのではないのでしょうか。「神様」の存在もそうだと思います。多くの人が神はいるかもしれないと思っています。しかしどんな方なのか、どこにおられるのか、自分とどんな関係があるのかということになると、あやふやになってしまいます。思い出すことのできない、しかし見いだせなくては満たされない「神様の記憶」が誰の中にもあるのです。それを満たすことのできる方がイエス・キリストです。神を見ることのできない私たちのために、まことの神であるイエス・キリストはこの世に人として生まれ、その生き方とご人格によって神を説き明かされました。それで世界のキリスト教会は、クリスマスにこの方のご降誕を祝うのです。もし、あなたのなかに満たされない「神様の記憶」があるなら、このクリスマスにそれが満たされますように祈ります。クリスマスの祝福が、神を知ることを願うすべての人の上に、豊かにありますように。

結城福音キリスト教会(日本キリスト教会連合)
牧師 飯田勝利 結城市大字結城603
0296-33-4359 <http://www.church.ne.jp/yuki/>

定例集会(毎週)

教会学校(ミラクル)(日) 9:00- 9:45

聖日礼拝 (日)10:30-12:00

聖書の学び、祈り会 I(水)10:00-12:00

聖書の学び、祈り会 II(水)19:30-21:00

YCC(Yuki Culture Course)

♪♪ミラクルクリスマス会♪♪

子供たちのためのクリスマス

12月23日(日)

✠✠キャンドル礼拝✠✠

教会でクリスマスを体験しましょう

12月24日(月)

聖書豆知識

◎「見上げてごらん、夜の星を」

イルミネーションの美しい季節となりました。LEDの青や白などのライトに彩られて、普通の町並みが、昼間とは打って変わった「ワンダーランド」のように見えます。思わず見とれてしまいます。

でも、この時期、地上のイルミネーションだけでなく、天上のイルミネーションにも目を向けてみてはいかがでしょうか。そう、冬の夜空の星たちのことです。

“木枯し途絶えて 冴ゆる空より 地上に降（ふ）りしく 奇（くす）しき光よ
ものみな憩える 静寂（しじま）の中に 煌（きらめ）きゆれつつ 星座はめぐる “

これは「冬の星座」という曲の歌詞ですが、そこに歌われているように、冬は湿度が低いせいもあって、夜空の星がとても美しく見える季節なのです。

夜空の星といえば、近代の大哲学者カントのことばを思い出します。「常に新たに高まりくる感嘆の思いと畏敬の念をもって心を満たすものが二つある。わが上なる星の輝く空とわが内なる道德律である。」そう、カントならずとも、夜空の星を見上げるとき、私たちも不思議な感覚を覚え、感嘆の思いと畏敬の念に満たされるものですね。何か「永遠」とか「無限」とか「希望」といったようなことを思わずにはいられません。そういうせいでしょうか、聖書の中にも、夜空の星が重要な役割を果たしている出来事がいくつか登場してきます。

旧約聖書でのその代表格はアブラハムのケースでしょうか。イスラエル民族の始祖アブラハムは神によって「約束の地」に導きいられ、豊かに祝福されますが、跡継ぎがないまま高齢を迎えます。そのアブラハムを神はある夜、外に連れ出し、「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」「あなたの子孫はこのようになる」と約束するのです。アブラハムは、おそらく満天の星空を見上げつつ、それらを創造した全能の神を信じるのです。神はそれをよしとされ、彼に跡継ぎイサクを誕生させます。そして、イサクからヤコブが生まれ、やがてその子孫がイスラエル民族となり、空の星の数のようになっていくのです。ここでは、夜空の星たちは「予告された希望」の「しるし」といった感じですね。

同じように星を見上げることにより、祝福された人々が新約聖書にも登場します。クリスマスの出来事の重要な脇役、「東方の博士たち」です。彼らは、東方において、夜空の星を見上げ、救い主が生まれたことを知らせる星を見たのでした。彼らは長い旅を続け、ユダヤのベツレヘムにたどりつき、その星に導かれて救い主イエスに出会い、黄金、乳香、没薬を献げます。彼らはこのようにしてイエス・キリストに対する最初の異邦人礼拝者という榮譽を担うこととなったのです。ここでは、夜空の星は「実現した希望」の「シンボル」といったところでしょうか。クリスマスツリーの天辺にしばしば星が飾られているのも納得できますね。

さあ、この冬、スマホや携帯の小さな画面、あるいはパソコンやテレビの四角な画面ばかり見ていないで、広い大きな夜空を、そして、そこに輝く宝石のような星たちを見上げてみませんか。ひょっとすると、なにか「希望」や「幸せ」といったものを感じられるかもしれませんよ。あの往年のヒット曲「見上げてごらん、夜の星を」の歌詞にあるように。でも、寒いシーズンですから、風邪をひかないようにくれぐれも注意してくださいね。

(K.K)

